



平成22年11月4日

各 位

上場会社名 株式会社ヒガシマル
 代表者 代表取締役社長 東 紘一郎
 (コード番号 2058)
 問合せ先責任者 管理部長 上野 善博
 (TEL 099-273-3859)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月18日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,807	166	170	86	18.36
今回発表予想(B)	4,571	156	175	51	11.03
増減額(B-A)	△236	△10	5	△34	
増減率(%)	△4.9	△6.3	3.0	△40.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	4,459	128	199	108	23.03

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,160	219	287	148	31.65
今回発表予想(B)	8,774	149	168	46	9.95
増減額(B-A)	△385	△69	△118	△102	
増減率(%)	△4.2	△31.8	△41.2	△68.6	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	8,192	197	246	85	18.19

平成23年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,552	164	178	94	20.08
今回発表予想(B)	4,452	191	239	60	12.83
増減額(B-A)	△99	26	60	△34	
増減率(%)	△2.2	16.3	34.1	△36.1	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	4,317	174	221	130	27.63

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,623	202	292	154	32.77
今回発表予想(B)	8,343	164	274	46	9.95
増減額(B-A)	△280	△37	△18	△107	
増減率(%)	△3.2	△18.6	△6.2	△69.6	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	7,958	269	390	△293	△62.46

修正の理由

当第2四半期連結累計期間の業績は、水産事業ではハマチ飼料類及びマダイ飼料類等の受託生産が減少し、食品事業では7月までの冷夏が響きそうめんなどの夏季商材が振るわず、即席麺類及び乾麺・つゆ類等は価格競争によって受託生産が減少したことにより、売上高は2億36百万円(△4.9%)の減収、自社商品の販売比率上昇は利益率改善に作用しましたが、飼料原料の値上がりが大きいため営業利益は10百万円(△6.3%)の減益、経常利益は物品売却益等の増加により5百万円(3.0%)の増益、当連結会計年度から「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号)を適用したことに伴い、特別損失に資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額12百万円を計上したことから、四半期純利益は34百万円(△40.0%)の減益となる見込みであります。

当連結会計年度の業績は、当第2四半期連結累計期間と同様の理由により、売上高は3億85百万円(△4.2%)の減収、営業利益は69百万円(△31.8%)の減益、物品売却益等は増加しますが、ベトナムドンの切り下げによる為替差損が見込まれ、経常利益は1億18百万円(△41.2%)の減益、当期純利益は1億2百万円(△68.6%)の減益となる見込みであります。

当第2四半期累計期間の個別業績は、当第2四半期連結累計期間と同様の理由により、売上高は99百万円(△2.2%)の減収、飼料原料価格が値上がりしましたが、前期からの持ち越し在庫があったことと自社商品の販売比率上昇が利益率改善に作用したため、営業利益は26百万円(16.3%)の増益、経常利益は物品売却益等の増加により60百万円(34.1%)の増益、ベトナム子会社は売上高が予想を下回っていることとベトナムドンの切り下げに伴う為替差損の発生により四半期純損失を計上したことから、特別損失に債務保証損失引当金繰入額54百万円及び資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額12百万円を計上したことから、四半期純利益は34百万円(△36.1%)の減益となる見込みであります。

当事業年度の個別業績は、当連結会計年度と同様の理由により、売上高は2億80百万円(△3.2%)の減収、営業利益は37百万円(△18.6%)の減益、経常利益は18百万円(△6.2%)の減益、ベトナム子会社の当期純損失が予想され、債務保証損失引当金繰入額51百万円の追加計上が見込まれるため、当期純利益は1億7百万円(△69.6%)の減益となる見込みであります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって異なる場合があります。

以上